

## 研修報告書No.12

所 属：昭和大学藤が丘病院

氏 名：2年目研修医 野田 淳

研修先：特定医療法人長生会 大井田病院  
医療法人聖真会 渭南病院  
宿毛市立 沖の島へき地診療所

年末年始を挟み、4週間弱の非常に短い研修期間でしたが、一生の記憶に残る素晴らしい研修でした。自分は東京生まれの東京育ちで、地方で暮らしたことがありません。なので、小さい頃より田舎になんとか憧れを持っていて、休み期間を見つけてはドラマ「Dr.コトー診療所」のような楽しい世界を想像しながら沖縄の離島に行ったり、たくさん国内旅行をして田舎をよく味わってきたつもりでした。しかし、地方に実際に住んでみるとわかることがこの1か月でたくさんありました。そこにおける医療というのはまさにその地域における生命線であります。研修初日、1時間半かけて高知市内へ到着後、まさかここから鉄道で3時間以上かかるとは思ってもおらず、交通の不便さを痛感しました。大井田病院ではとても短い研修期間でしたが、理事長先生や院長先生との出会いは忘れられない思い出です。特に院長先生からはこれからの在宅や地域医療の考え方や救急医をおやりになったからこそ分かる熱い思いを伝えてくださいました。一番記憶に残っているのは携帯電話が圏外になるような山奥のお宅の看取りの訪問診療へ行ったことです。こんな場所に家があるのか、ここに住んでいる人はどんな生活をしているのかと思いながら、先生や看護師さんと山道を超えて診療に向かいました。そこでできることは本当に限られています。でも我々がそこへ行かなければその方は最期の時間を自宅で過ごすことはできず、病院で最期を迎えることとなります。行ってできることは話を聞くことと少しの鎮痛薬を調整することぐらいですが、最期の時間を自宅で家族と過ごせることがどんなに幸せなことか。院長先生は亡くなった場合は土日でも連絡をもらえる体制で、訪問看護師さんから逐一状況を聞きながらマネジメントされていて、笑いを織り交ぜながら家族との信頼関係を築こうとされており、本当に神々しく感じました。沖の島診療所は天候不良で日帰りとなりましたが、本当に行けてよかったと思っています。医師不足で常勤の医師を配置できなくなってしまったという厳しい状況の中で高知県の先生方が必死に支えてくださっている現状に心を打たれました。残りの2週間は土佐清水の渭南病院でお世話になりました。宿毛と清水で同じ幡多地域ながら少し性格の異なった医療圏を感じることができ、これが非常に良い経験となりました。渭南病院では、ひたすらプライマリケアの外来を診させていただきました。研修医は外来の経験がなく、自分の診た患者さんを2日後再診で診られるのはとても良い経験です。特に外傷はこの処置をしたら2日後どうなっているかがしっかりこの目でわかりました。渭南病院は大井田病院と異なり近くに急性期病院がなく、一般病床から在宅医療まで幅広く受け持っており、まさにその地域の生命線となる病院です。先生方の当直もとても多く、忙しいながらご飯などに連れて行っていただきいろんな話を聞かせていただきました。これから研修医が終わり、忙しくなっても、周りの方への感謝の気持

ちを忘れず、患者さんへの感謝の気持ちを忘れず頑張っていかなければならないとその先生は教えてくださりました。どんなに忙しくても、**コメディカル医療スタッフ**への感謝を忘れない、患者さんを一番に常に考えている、その姿勢に私ははっとなりました。単身赴任でこちらに来て、月に何回も当直をして、時間を惜しんで研修医に講義までして下さる先生からそのような言葉を聞き、医師にとって本当に大切なものは何か考えさせられました。

高知県はまさに東京の未来の縮図です。1か月、この幡多地域を研修できたことは自分の将来にとっても大きな意味を持つと思います。それだけ充実した時間でした。

お世話になった先生方、スタッフの皆様すべてに心から感謝申し上げます。将来その恩返しができるよう立派な医師になれるよう頑張ります。